

日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第23期・第7回）議事録

日時： 平成28年12月21日（水）13:30-14:30

場所： 日本学術会議5階5-B会議室

出席者： 鈴木孝治（委員長）、尾嶋正治（副委員長）、竹内孝江（幹事）（スカイプ参加）、佐藤縁（幹事）、今榮東洋子（スカイプ参加）、谷口功、原口紘丞

欠席者： 一村信吾（副委員長）、田中勲、加藤昌子、玉田薫、石田英之

記録： 佐藤 縁

配布資料:

資料1 前回（第23期第6回分析化学分科会）議事録案

資料2 シンポジウム「我が国の計測プラットフォームをどのように構築すべきか」の検討及び今後の予定について

資料3 今後の政策提言について

議事:

1. 議事録確認（資料1）：鈴木委員長より、冒頭に今年度の挨拶があった。また、前回議事録案（分析化学分科会（第23期第6回）について内容の説明、訂正箇所（冒頭部分 第23期・第5回（誤）→第23期・第6回（正）、10行目 配付資料：資料1 前回（第23期第4回（誤）→第5回（正））、および内容の確認がなされた。本内容は実は回覧がまだであったので、これより回覧し、1週間程度を目処に確認を行い、後日議事録とさせていただくことでお願いしたい。
2. 資料2「我が国の計測プラットフォームをどのように構築すべきか」に関連して：
 - (2-1) 日本化学会第97春季年会特別企画への応募について（鈴木先生より）。CSJ カレントレビュー23号「先端計測」（2016年8月末に出版）に関連して、これに入る形で分析化学分科会も参加する。最終日の午後の開催となる予定（田中耕一先生（次世代質量分析について）にも講演していただく。馬場先生、品田先生、大森先生、松尾先生、最後に、鈴木先生・尾嶋先生・一村先生の時間を確保する予定）。
 - (2-2) 資料3 ヒアリング（9月）に使用した資料について（鈴木先生より）。ヒアリングの感想・その後の感触についても報告があった。

- ・ヒアリングの結果については報告が来ていない、たぶん通らなかったのではないか。前は化学委員会から9件、ヒアリングに3件残ったが今年はどうであったのか。またここまでつないできたこの結果をどこに持って行くのがよいのか。
- ・機会あれば省庁に説明・宣伝に行く必要はあろう。工業会の会長とともに説明にもいったほうがよさそう（今栄先生よりコメント）。課長補佐より上の方がよいのではないか。総合科学会議は個別案件は特別には受けないようだ。少なくとも覚えておいてもらうのは大事かと思われる。
- ・この先も実現に向けて講演会・シンポジウムを続けるのは大切。今回ヒアリングに呼ばれたのは大きな進歩である（尾嶋先生より）。

(2-3) 2017年春の日本化学会3月19日のシンポジウムと、その後のシンポジウム開催についての議論：

- ・(3月19日の)シンポジウム内「計測分析共用プラットフォームの構築」40分の振り分けについて。一番は鈴木先生(プラットフォーム構想全般)10分、次に一村先生(JSPS関係)15分、尾嶋先生(文科省およびJST先端計測関係)15分の順としたい。

- ・当分科会のシンポジウムについて。

[内容] 計測分析共用プラットフォームの具体的なものを提案できそうな研究者(先生)、講演を聴けばどんな状態になるのかが考えられるようなシンポジウムを開催したい。受け皿になってくれるような省庁の人もお呼びしてシンポジウムを開催する。分析機器工業会会長、経産省、文科省、JSTの方より(計4人)。「こういう枠組みがないので困っている」など、具体的にあげてもらえるとよい。

[開催時期・場所] (2017年)1月に関係者に話ができれば、(2017年)9月前半のJASIS(幕張・分析機器展)で同時に行える可能性もある。JASIS1日目だと文科省の方もお越しになる。鈴木先生に内々に関係者をお願いしてもらい、できれば申し込みもお願いする。

[資料3, 2のお話頂く候補者について]

オリジナルの日本の技術を持っている人(候補者案)：

宮原先生(東京医科歯科大)安全安心；DNAシーケンサ(医療現場分析)

宮脇先生(理研)高度イメージング技術

田中耕一先生(極限計測)に。

安全安心では科警研の瀬戸先生なども候補に。2020年オリンピック関連、テロ対策など。

3. 今後の政策提言について：

「計測プラットフォーム」を中心としたもので引き続き検討していくこととした。

4. その他：

- ・9月初旬、幕張で(JASIS を目指して交渉)。構想の代表的な例として名前の挙げた3人の先生に願います。
- ・マスタープラン発表図面(配付資料3)の4.の中央は絵(イメージ)の方がよい。魅力的に書く必要がある。
- ・IUPAC 関係報告(竹内先生より)3月18日スロバキア国 Bratislava にてディビジョン会議開催。オレンジブックは8割完成。surface analysis の章を担当(分科会からは一村先生、石田先生も参加)。7月にサンパウロでIUPAC 開催・参加予定(竹内先生)。
- ・次回分科会開催：2, 3月(JASIS への状況しだい)プログラム決めの会とするか、あるいは5, 6月には分科会を開催して、シンポジウムの準備状況を確認することとしたい。

以上